

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	中野区療育センターゆめなりあ			
○保護者評価実施期間	令和7年11月15日		～	令和7年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	100	(回答者数)	60
○従業者評価実施期間	令和7年11月15日		～	令和7年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多機能（児童発達支援・保育所等訪問支援・相談支援・療育相談）事業所のため、事業所内でも多職種で様々な連携の形が取れること	必要に応じて専門職による評価や職員への関わり方の指導などを行っている。相談支援員とも同席で面談を行うことや、モニタリングの共有など事業所内での情報共有は職員間ですぐに行っている。	嘱託医もいるので、医師相談など医療との連携につなげていくための工夫。保護者への情報発信。
2	放課後等デイサービスの専有スペースが広く、また施設内で他事業と共有で使えるスペース、カームダウンルームなど、使用できる部屋やスペースが多い。また身体を動かして遊べる遊具なども充実している。	利用児の特性に応じた好きな遊びを活動として提供する。好きな遊びを通して、順番や、時間の見通し、行動の切替や遊ぶ際のルールなど、利用児に応じたねらいをもって活動を提供している。	遊びや支援のアイデアは法人内の事業所とも共有していく。また研修などを活かして、より良い遊びのアイデア、経験を職員も積み重ねていく。
3	利用児の発達や個性に応じたグループ作り、部屋分けをすることができている。	毎年度利用希望を再確認しつつ年度ごとにグループを調整している。子どもの発達や下校時間など登園時間の変化などにも応じたクラス編成を行っている。	定員がすでにいっぱい状況の中での新規の希望者の受け入れが難しいので、利用の判断や終了後のフォローなど、必要な子どもへ必要な支援が提供できるように考えていく必要がある。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員配置は基準以上に手厚いが、個別対応が多い中で人手が分散しやすい	区立施設としてなるべく多くの方へ支援が提供できるように取り組んでいるため、個別対応が必要な児童も年々増えていく傾向がある。	より効果的な環境設定や、人員配置、クラス間だけでなく事業所全体での連携を行っていく。また頻度が少ない中でも子どもの発達にアプローチし、どのような子どもでも自立して過ごし、遊んでいける部分を積極的に支援していく。
2	保護者向けの学習会や交流会など、保護者支援として取り組みが弱い。	登録している利用児も学齢や発達など非常に幅広い方がおり、興味、関心のある分野の幅が広いと感じる。	オンブズマン勉強会、保護者ボランティアなど幅広い方を対象に行っていける企画と合わせて、通っている学校別や年齢別などより細かいテーマ、要望に応じた企画も検討していけると良い。
3	保護者の方への情報発信がまだ弱い	コドモンでの情報発信、おたよりの発行など取り組んでいる。	様々な訓練やプログラムなど取り組んでいることの情報に保護者がすぐに確認できるようによりICT含めて情報を積極的に発信していく。